



第94期 株主通信

2024.4.1 ~ 2024.9.30

株式会社SUBARU

株主の皆様へ

株主の皆様には平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第2四半期(中間期)の連結業績概況(2024年4月~9月)

売上収益は、海外の厳しい競争環境による販売奨励金の増加や売上台数の減少などがあったものの、為替変動による増収効果や価格改定などにより、前年同期比2.4%増の2兆2,662億円となりました。営業利益も同19.5%増の2,220億円となり、増収増益となりました。

国内市場は、レイバックを含むレヴォーグシリーズをはじめとした登録車を中心に好調に推移し売上台数は増加しました。海外市場は、売上台数に相当する卸売りは減少しましたが、お客様への小売販売は重点市場である米国において堅調さを維持し、26か月連続で前年同月超えを達成しています。

通期業績見通しと株主還元(2024年4月~2025年3月)

海外市場における足元の販売動向や在庫台数を踏まえ、生産台数・売上台数ともに期初発表値から減少させますが、通期連結業績見通しについては、増加傾向にある販売奨励金を業界低位水準へ抑制することや円安影響などを織り込むことにより、売上収益4兆7,200億円、営業利益4,000億円と期初発表値を維持します。

また、株主の皆様への還元については、期初発表通り中間配当は1株当たり48円とし、期末配当予想も48円、年間配当予想は96円といたします。

ありたい姿の実現に向けて

私たちは、「笑顔をつくる会社」をグループのありたい姿に掲げています。SUBARUにお乗りくださるお客様だけでなく、従業員や当社グループの事業を支えてくださっているお取引先の皆様にも、ありたい姿に共感いただき笑顔の輪を広げたいと願っています。また、当社を評価して投資して下さる株主の皆様には、私たちが企業価値を高めることで、笑顔になっていただきたいと強く思います。さらには、SUBARUを軸とし

て形成されたコミュニティが各地域の活性化や社会課題の解決に大きな役割を果たし、その当事者や関係者の皆様も笑顔になっていく、そのようなポジティブな笑顔のスパイラルを巻き起こし、愉しく持続可能な社会を実現したいという想いを持っています。その例として、昨年から開始した「一つのいのちプロジェクト」の取り組みの一部を本誌裏面にてご紹介しています。

カーボンニュートラル社会の実現に向けた取り組みについては、「柔軟性と拡張性」の考え方のもと「モノづくり革新」と「価値づくり」で世界最先端を狙うべく、新しい時代のSUBARUグループの基盤づくりを進めています。先行きの見えない市場の変化に対応するため、BEVに開発の舵を一旦切りつつも、そこで得た知見をICE系商品にも展開していくなど、「柔軟性」をもって取り組んでいきます。その概要については、右記「SUBARUビジネスアップデート」にてご説明しておりますので、是非ご覧ください。

また、BEV移行初期において極めて重要となるHEV商品の強化により、商品の「柔軟性」を確保し、お客様の選択肢を増やします。その具体例として、走りの愉しさと環境性能を高い次元で両立させた新開発の次世代ハイブリッドシステム「ストロングハイブリッド」を搭載したクロストレックを発表いたします。本誌裏面でもご紹介していますので、ご覧いただけますと幸いです。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

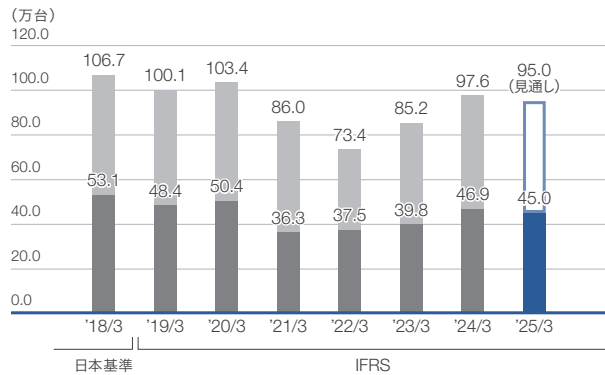
2024年12月
代表取締役社長

大崎 篤



売上台数

■ 売上台数1~2Q ■ 売上台数3~4Q



自動車生産台数

海外生産は前年同期比2.5%増の17.7万台と堅調に推移したものの、国内生産が、年度初めの生産調整の影響などにより同7.1%減の29.8万台となり、世界生産台数は同3.7%減の47.5万台となりました。

通期の生産計画については、海外市場における足元の販売動向や在庫台数を踏まえ、期初発表値から1.0万台減の95.0万台を見込みます。

	4-9月累計	4-3月累計
2024年3月期	49.3万台	97.0万台
2025年3月期	47.5万台	95.0万台
前年同期比	1.8万台(3.7%)減	2.0万台(2.0%)減

自動車売上台数

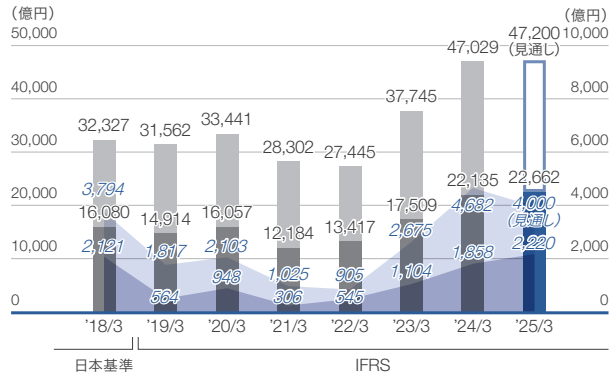
国内市場は、レイバックを含むレヴォーグシリーズに加えて、クロストレックや特別仕様車を導入したフォレスターなどの登録車販売を中心に好調に推移し、前年同期比10.6%増の5.0万台となりました。海外市場は、主要市場の米国における小売販売は26か月連続で前年超えを達成したものの、売上台数に相当する卸売りが上記の生産影響により同5.8%減の40.0万台となり、全世界の連結売上台数は同4.2%減の45.0万台となりました。

通期の販売計画についても、生産計画と同様の理由により、期初発表値から3.0万台減の95.0万台を見込みます。

	4-9月累計	4-3月累計
2024年3月期	46.9万台	97.6万台
2025年3月期	45.0万台	95.0万台
前年同期比	2.0万台(4.2%)減	2.6万台(2.7%)減

売上収益・営業利益

■ 売上収益1~2Q ■ 売上収益3~4Q ■ 営業利益1~2Q ■ 営業利益3~4Q



第2四半期(中間期)の連結業績概況(2024年4月~9月)

海外の厳しい競争環境による販売奨励金の増加および売上台数の減少などがあつたものの、為替変動による増収効果や価格改定などにより、売上収益は、前年同期比2.4%増の2兆2,662億円、営業利益は、同19.5%増の2,220億円となりました。

なお、税引前中間利益は同2.4%減の2,210億円、親会社の所有者に帰属する中間利益は同8.0%増の1,630億円となりました。

	売上収益	営業利益	親会社の所有者に帰属する中間利益
2024年3月期中間期	22,135億円	1,858億円	1,509億円
2025年3月期中間期	22,662億円	2,220億円	1,630億円
前年同期比	527億円増	362億円増	121億円増

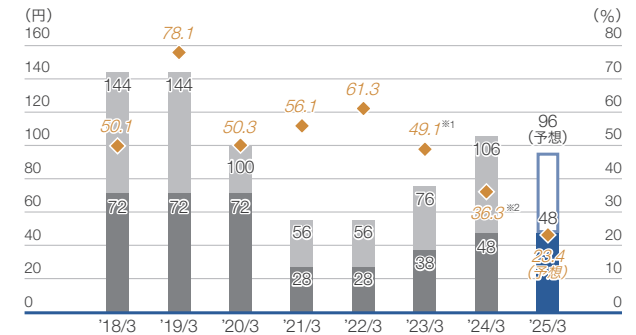
通期業績見通し(2024年4月~2025年3月)

生産台数および売上台数の減少は見込むものの、増加傾向にある販売奨励金の業界低位水準への抑制および円安影響などを織り込み、売上収益4兆7,200億円、営業利益4,000億円と期初発表値を据え置きます。なお、通期の連結業績予想数値の前提となる為替レートは1米ドル149円(前期144円)、1ユーロ162円(前期154円)といたします。

	売上収益	営業利益	親会社の所有者に帰属する当期利益
2024年3月期	47,029億円	4,682億円	3,851億円
2025年3月期	47,200億円	4,000億円	3,000億円
前期比	171億円増	682億円減	851億円減

配当金・総還元性向

■ 配当金(中間) ■ 配当金(年間) ◆ 総還元性向



※1:2023年5月11日に公表した400億円の自己株式の取得を含みます。
 ※2:2024年5月13日に公表した600億円の自己株式の取得を含みます。

配当(4~3月)

当社は株主の皆様の利益を重要な経営課題と位置付けており、総還元性向30%~50%を目安に、業績、投資計画、経営環境を総合的に勘案し、安定的・継続的な配当と機動的な自己株式の取得を実施していきます。

前期の中間配当は、普通配当38円に加え、創立70周年の記念配当10円を実施いたしました。当期の中間配当は、普通配当を10円増配の48円とし、期末配当予想についても同額の48円、年間配当金は96円を予定しています。

		1株当たり配当金(円)		
		中間	期末	合計
2024年3月期	実績	普通配当 38円00銭	48円00銭	86円00銭
		記念配当 10円00銭	10円00銭	20円00銭
2025年3月期	実績	48円00銭		
	予想	普通配当	48円00銭	96円00銭

業績・決算に関する詳細情報のご案内

決算短信・決算説明会資料はこちらからご覧ください。

<https://www.subaru.co.jp/ir/library/results.html>



IRメール配信のご案内

決算情報などのIRに関する新着情報をメールにてお届けいたします。こちらからご登録ください。

<https://www.subaru.co.jp/ir/support/mailmagazine/>



2023年8月に公表した新経営体制における方針の各種検討状況につきまして、進捗をご説明します。

当社は、カーボンニュートラル実現に向けた中長期的な解決策はBEVが軸となっていくと想定しています。しかし、先行きが不透明な時代であるからこそ、「柔軟性と拡張性」の考え方のもとで、「モノづくり革新」と「価値づくり」を推進していきます。

足元の商品については、トヨタ自動車株式会社との共同開発による4車種のBEVの市場投入を予定しています。またBEV移行初期において重要となるHEVは、新開発の「ストロングハイブリッド」システムを「クロストレック」や次期「フォレスター」に展開を拡大することで商品の「柔軟性」を確保し、お客様の選択肢を増やします。

昨今、BEVへの移行が踊り場を迎えたとされています。移行スピードは不透明であり、ICE系商品の需要も一定程度継続すると当社は考えています。このような先行きの見えない変化に柔軟に対応していくためには、従来の考え方、手法を革新的に変えていく必要があり、BEV開発を切り口に大変革に突き進みます。

一方で、最終的に何を選択するかを決めるのはお客様です。そのための選択肢として、BEVだけではなくICE系商品も幅広く用意することこそが「柔軟性」であり、それを実現するために「モノづくり」と「価値づくり」で世界最先端を狙います。

モノづくり革新

価値づくり

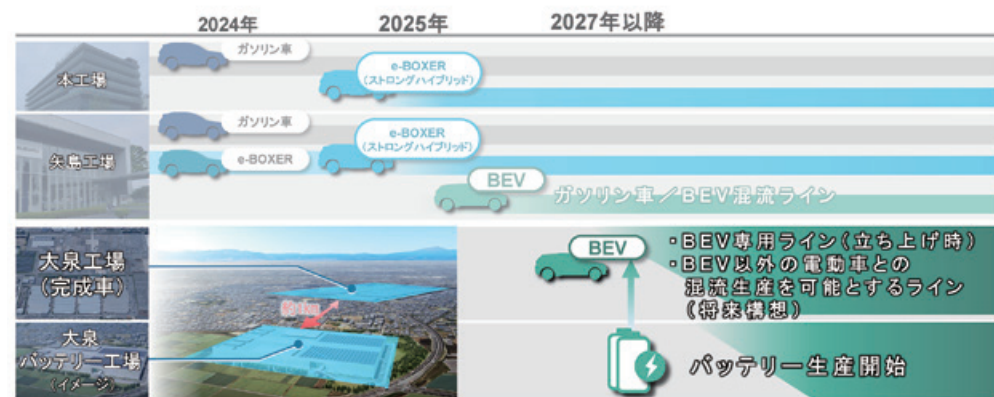
「モノづくり」「価値づくり」で世界最先端を狙う

BEV開発とその知見を活かした
さらなるICE系商品強化

さらに、「モノづくり革新」と「価値づくり」を完遂し、SUBARUらしいアフォーダブルな商品を提供することで「お客様に感じていただける価値の最大化」に取り組み、「業界高位の収益力」を維持し、100年に一度の大変革期を勝ち残っていきます。

モノづくり革新

「モノづくり革新」の実現に向け重要となる大泉新工場は、環境規制やお客様の動向を踏まえながらBEV専用ラインとして立ち上げた後に、BEV以外の電動車との混流生産を可能とする「段階的」な立ち上げを検討しています。また、バッテリーの生産工場は、大泉新工場の近接地への建設を予定しています。



大泉新工場の段階的立ち上げによる合理的な生産・投資

ゼロから建設する自由度を十分に活かせる新しい工場では、「生産ラインのモジュール化」や「柔軟なサブラインの構築」、そして私たちが長年突き詰めてきた「変種変量短生産」の考えに基づく高効率な混流生産手法をさらに進化させていきます。

同時に、BEVをはじめとした「新しい商品」は、開発段階での「車両構造」や「仕様」をシンプルにして部品点数を大幅に削減し、「生産工程半減」へつなげます。さらに、群馬県太田市を中心に近距離圏内に工場が位置するロケーションメリットを最大活用して、お取引先様まで含めたサプライチェーンの物流効率を極限まで高め、お客様に商品をお届けするリードタイムを大幅に短縮します。

価値づくり

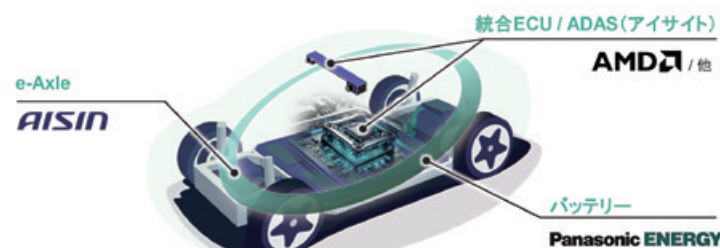
当社は先般、フォーブズ誌の「社会へ良い影響をもたらす企業ランキング」において、米国内3,000超のブランドの中で、2位に2年連続で選ばれました。SUBARUの理念や取り組みに対する総合的な評価と捉えていますが、その根幹は不変の提供価値である「安心と楽しさ」を具現化するために追求し続けてきた「テクノロジー」にあると考えています。

当社の強み領域におけるテクノロジーの進化を「協業の深化」と「知能化」により加速させ、世界最先端の「価値づくり」を実現します。そして、時代毎に求められるSUBARUらしい魅力的な商品の提供を通じ、より多くの皆様に価値としてお届けします。

テクノロジーの進化

協業の深化

各種協業を深化させ、「SUBARUらしいBEV」を実現



世界最先端の「安心と楽しさ」を実現

株式会社アイシン

両社の強みを活かし競争力ある軽量・コンパクトな「eAxle」

パナソニック エナジー株式会社

バッテリーで世界最先端の性能とコストを実現

AMD

アイサイトとAI推論の融合。「統合ECU」におけるSoCの最適化

知能化



統合ECU

安全や走りの領域に絞り込んだ「内製開発」により、SUBARUらしい高度な知能化の実現

統合ECUを活用した制御ノウハウやBEV開発の知見を蓄積するとともに、当社が得意な内製化のスピードをさらに高め、ICE系商品への活用と実装を進めます。

投資計画と資本政策

各取り組みを確実かつ最適なタイミングで進めていくために、経営基盤となる「財務健全性・安定性」は確保しながら、「成長投資」と「株主還元」へ適切に配分していきます。「電動化関連投資」の総額1.5兆円は不変ですが、合理的かつ時代に合わせた適切な投資を柔軟に行ってまいります。

・BEV: 電気自動車
・HEV: ハイブリッド自動車
・ICE系: HEV、ガソリン車など

SUBARU ビジネスアップデートの詳細はこちらをご覧ください。



「統合レポート2024」「サステナビリティWeb2024」を公開

■ 統合レポート2024

SUBARUグループが一丸となって注力する取り組みや考え方、またその前提となる蓄積してきた強みや経営基盤について紹介しています。当社グループならではの「強み」や「ビジネスモデル」、それらの軸となる「モノづくりの考え方」に加え、私たちにとって価値創造の根幹をなす「お客様との関係を育てる」という考え方の解説を通して、価値創造ストーリーをよりご理解いただけるよう努めています。是非ご覧ください。

<https://www.subaru.co.jp/ir/library/annual-reports.html>

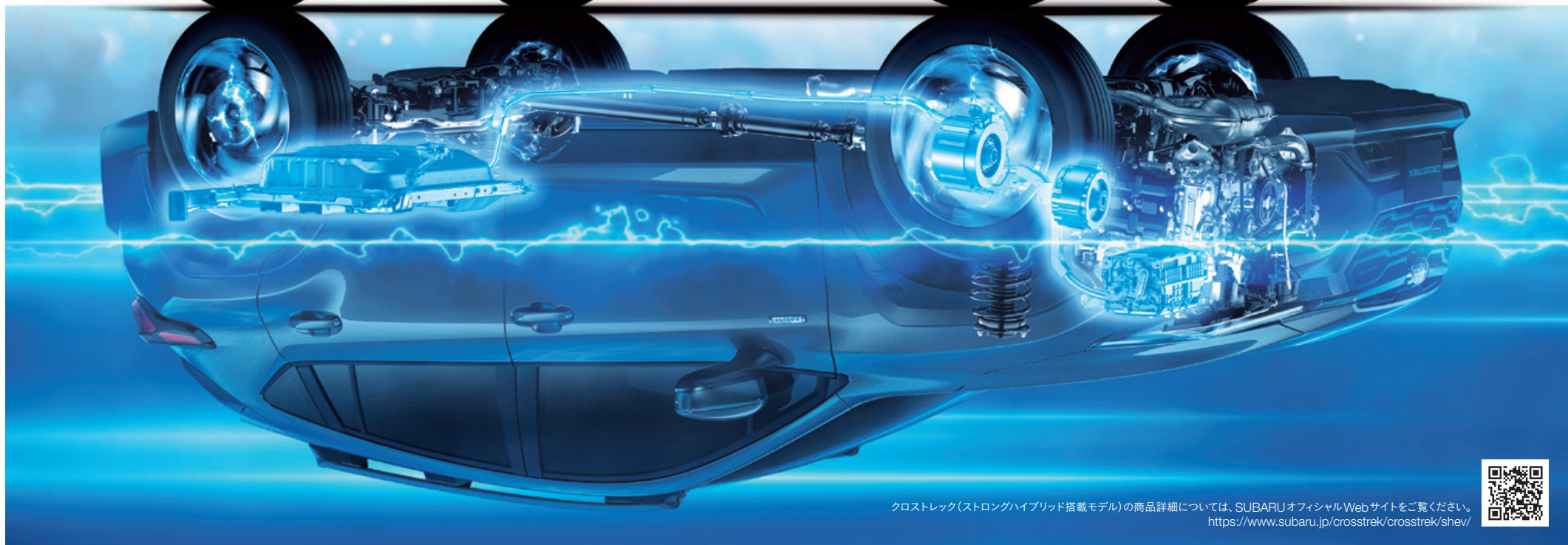

■ サステナビリティWeb2024

SUBARUグループのサステナビリティの考え方や目標、取り組みについて、ESGの視点で具体的に紹介しています。私たちは、SUBARUの価値や強みを一層活かした形で社会とSUBARUグループの持続可能性に寄与するため、社会価値・経済価値の創出を目指します。本サイトでは、ステークホルダーの皆様へ「安心と楽しさ」を提供し、愉しく持続可能な社会の実現により一層貢献していくという思いを伝えています。

https://www.subaru.co.jp/csr/subaru_csr/


STRONG HYBRID

CROSSTREK



クロスレック(ストロングハイブリッド搭載モデル)の商品詳細については、SUBARU オフィシャル Web サイトをご覧ください。
<https://www.subaru.jp/crosstrek/crosstrek/shev/>



SUBARU ストロングハイブリッドを発表

クロスレック(日本市場向け)に初採用

「ストロングハイブリッド」は、エンジンとモーターを動力源とし、走りの楽しさと環境性能を高い次元で両立させた新開発の次世代ハイブリッドシステムです。

この「ストロングハイブリッド」を搭載したクロスレックは、2024年12月5日に発表予定です。

試乗をご希望の方は、
お近くの販売特約店へ
お問い合わせください。



SUBARU STRONG HYBRID

S:HEV

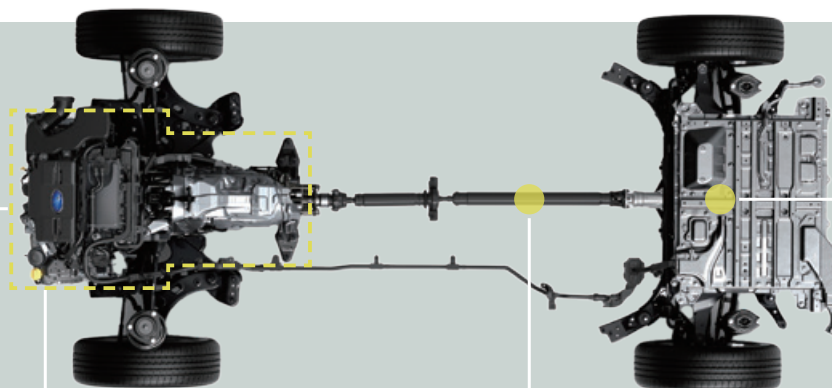
特徴

優れた静粛性と環境性能

状況に応じて動力源であるエンジンとモーターを効率よく使い分けるシリーズ・パラレル方式を採用。EVドライブモードの採用を含めEV走行領域を拡大することで、走行時の静粛性も向上。

スムーズな加速

SUBARU独自のシンメトリカルAWDの基本レイアウトを継承しつつ、新開発の2.5L水平対向エンジンとトランスアクスルに内蔵するモーターとの組み合わせにより、高い加速性能で走りの楽しさをさらに向上。



高い悪路走破性

前後輪をプロペラシャフトでつなげる機械式AWDの踏襲により、あらゆる路面で優れたSUBARUらしい走行安定性を発揮。

利便性向上

大型駆動用バッテリーを搭載しながらも燃料タンク容量を拡大するとともに、マイルドハイブリッドモデルに比べ燃費を約20%向上することで、歴代SUBARU最長となる航続距離を実現。

一つのいのちプロジェクト

「ひと」「自然」のいのちを守る人たちをSUBARUは応援します

当社は飛行機づくりのDNAから続く「人を中心としたモノづくり」のなかで、安全を最優先に考え、乗る人の「いのち」を守るということを大切にしてきました。

モノづくりで大切にしてきた想いと同じように、「ひと」や「自然」のいのちを守るために日々取り組まれている人たちを応援し共に歩いていく「一つのいのちプロジェクト」を2023年10月より開始しました。このプロジェクトは、SUBARUがずっと大切にしてきた「人を中心に考える」「いのちを守る」ということに想いを通じ、社会課題に対峙する人たちを、SUBARU・販売特約店が一体となって応援する活動です。SUBARUグループ一体となって、お客様にも参加していただきながら、応援の環を広げています。

詳しくはこちら



公益財団法人日本ライフセービング協会とのパートナーシップ

「2030年 死亡交通事故ゼロ」をめざすSUBARUは、「水辺の事故ゼロ」をめざす公益財団法人日本ライフセービング協会(以下「JLA」)の想いに共感し、2020年から「SUBARUライフセーバーカー」を提供し、2022年からはオフィシャルパートナーとして、車両提供にとどまらない協働を進めています。

この取り組みの一環として、2024年10月12日～14日に、ライフセーバーの技術の高さやチームワークや活動内容を多くの方々に伝え、理解を深めていただくため、第50回全日本ライフセービング選手権大会へJLAのオフィシャルパートナーとして協賛しました。また2日目の10月13日に、JLA、SUBARUグループの従業員とその家族の総勢158名が、大会会場の片瀬西浜海岸の清掃活動を行いました。主催者のかながわ海岸美化財団より、海のごみ問題の説明を受け、海の環境や生態系に及ぼす影響について理解を深めてから清掃活動を開始しました。粉々に小さくなったマイクロプラスチックや発泡スチロールの破片など、小さなごみを見つけながら海辺のいのちを守る活動へ貢献しました。

SUBARUは笑顔の溢れる未来に向けて、ひとのいのちを守る活動をこれからも応援していきます。



2020年からライフセーバーの監視救助活動をサポートするための車両として、「SUBARUライフセーバーカー」を提供してきました



SUBARUグループの従業員とその家族を含め総勢158名がボランティアとして参加しました。

自然公園財団とのパートナーシップ

豊かな森の植物や生き物といった「自然のいのち」を守るために日々活動している人たちをサポートするため、全国15の国立公園の公園管理を行う「一般財団法人自然公園財団」とパートナーシップを締結しています。2023年度には「日光国立公園那須平成の森」での自然公園財団の活動を支援するため、「ソルテラ」を提供したことに続き、2024年度は「中部山岳国立公園上高地」での活動を支援するため、「フォレスター」を提供しました。

この車両は公園管理や野生動物と人間の適切な距離を保つためのパトロールに使用されるほか、広大な上高地を利用者が安全に利用できるよう自然状況や降雨後の園路の点検、投棄ゴミの現場確認や回収に使用されています。

また、2024年10月には、上高地を守る「自然公園財団」の活動をより多くの方々に知ってもらい取り組みとして、お客様向けに「上高地の自然を愉しもう!」というイベントを販売特約店「スバル信州」と共催しました。

自然のいのちを守るために取り組まれる人たちをSUBARUはこれからも応援していきます。

「自然公園財団×SUBARU 上高地の自然を愉しもう!」活動報告はこちら



パトロールに使用されるフォレスター



イベント「自然公園財団×SUBARU 上高地の自然を愉しもう!」の様子

「2024国際航空宇宙展」に出展

「SUBARUの魅力と未来への挑戦」をコンセプトに展示



「SUBARU AIR MOBILITY Concept」の飛行実証機

陸上自衛隊多用途ヘリコプター「UH-2」のモックアップ



2024年10月16日～19日の4日間、東京ビッグサイトにおいて開催された「2024国際航空宇宙展」(主催:一般社団法人日本航空宇宙工業会ほか)に出展しました。これは、国内外の航空宇宙産業の関係者が集まる国内最大級の展示会です。

「SUBARUの魅力と未来への挑戦」をコンセプトとし、陸上自衛隊多用途ヘリコプター「UH-2」のモックアップのほか、昨年試験飛行に成功した「SUBARU AIR MOBILITY Concept」の飛行実証機など、幅広い製品・技術そして次世代への取り組みを多くのお客様に紹介しました。

今後も安全と品質を第一として、航空機の開発・製造に加え、整備・教育といったトータルサポートをお客様に提供していきます。

詳しくはこちら

企業スポーツ活動
SUBARU 運動部

1位	11.6km	並木 寧音
2位	9.4km	R.シャドラック
3位	15.1km	山本 唯翔
4位	9.5km	清水 歓太
5位	7.8km	鈴木 勝彦
6位	10.6km	照井 明人
7位	12.9km	梶谷 瑠哉

11/3に行われた東日本実業団駅伝の出走メンバーです。こちらの選手たちで予選を勝ち抜きました。
※ニューイヤー駅伝のメンバーとは異なる場合があります。

SUBARUでは、硬式野球部と陸上競技部の2つの運動部が活動しています。本紙では、ニューイヤー駅伝出場を控えている陸上競技部をご紹介します。

陸上競技部

詳しくはこちら



3000m障害を中心に活躍している三浦龍司選手や5000m(視覚障害T11)のアジア記録保持者である唐澤剣也選手も所属するSUBARU陸上競技部は、1998年に活動を開始しました。

これまで全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝)に2000年から2019年まで20年連続出場し、2021年には準優勝に輝きました。当社のモノづくりの拠点である群馬で開催されることもあり、従業員や地域の皆様が沿道で大きな声援を送ることが恒例となっています。今年も11月3日の予選を無事突破し、悲願の優勝を目指す選手たちは、追い込み練習に励んでいます。

来年のニューイヤー駅伝は1月1日、午前9:15に群馬県庁をスタートし、TBS系列で生中継も予定されています。

SUBARU陸上競技部への応援をどうぞよろしくお願いいたします。

株主様へ

住所変更、配当金受け取り方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増

未払配当金のお支払

- 証券会社に口座をお持ちの場合
→ お取引の証券会社にお申し出ください。
- 証券会社に口座をお持ちでない場合(特別口座)
→ みずほ信託銀行株式会社の全国各支店へお申し出ください。

みずほ信託銀行株式会社にお申し出ください。

0120-288-324

受付時間: 平日9:00~17:00
(銀行休業日を除く)